

# 米国・予防医療研究班による歯科疾患予防のガイドライン

ある予防処置が『科学的にどの程度効果があるか』と  
いうことを、様々な角度から調査してまとめて、結論づ  
けている調査がアメリカでのデータとして存在していま  
す。

根拠のあやふやな経験論ではなく、大規模調査の結  
果科学的な根拠として論文にまとめられているデータ  
から作成された米国のガイドラインを以下に示していま  
す。根拠の質や勧告の強さについては最後に記載して  
おりますので、御覧ください。詳細は当院院長へ御質  
問ください。

虫歯や歯周病を予防する為にどのような処置が『科  
学的に効果がある』と言えるのか、今後の参考にして  
頂ければと思います。



# 虫歯予防について

予防法	具体的予防法	根拠の質	勧告の強さ
フッ化物塗布	全身的;水道水フッ素化 局所的;歯磨き剤、塗布	I	A
シーラント	臼歯の溝を予防的に封鎖し 汚れを防ぐ処置	I	A
食事のコントロール	甘いもの控える 就寝中の哺乳瓶使用控える	II-1 III	A B
個人的な歯科衛生	フッ素配合歯磨き剤 フロス	III	C
定期検診	定期的な検診による予防	III	C

# 歯周病予防について

予防法	具体的予防法	根拠の質	勧告の強さ
プラークと歯石の除去	個人的な口腔衛生	I	A
	専門家による口腔衛生	I	A
クロルヘキシジン	ハイリスクグループのみ	I	A
定期的な歯科検診	定期的な検診による予防	III	C

# 噛み合わせ(歯並び)異常について

予防法	根拠の質	勧告の強さ
歯が抜けた後の空隙の維持	II-2	B
6歳までに指しゃぶりを直す	III	C
口腔発育中の気道の保持	III	C

## 根拠の質について

- I : 最低1つ以上の正しいデザインされた無作為コントロール研究から得た根拠
- II-1: 無作為ではないがよくデザインされたコントロール研究から得られた根拠
- II-2: 1つ以上の施設または調査団体によるよくデザインされた研究またはケースコントロール研究から得られた根拠
- II-3: 介入する場合としない場合についての数回連続の調査から得られた根拠
- III : 臨床的経験、記述的研究、熟達した委員会の報告に基づく社会的地位のある研究者の意見

## 勧告の強さについて

- A: その項目を定期検診に含むべきだという勧告を支持するだけの確かな根拠がある
- B: その項目を定期検診に含むべきだという勧告を支持する根拠がある
- C: その項目を定期検診に含むべきだと考えるだけの根拠に乏しいが、他の団体に勧告される可能性がある
- D: その項目を定期検診に含まないという勧告を支持する根拠がある
- E: その項目を定期検診に含まないという勧告を支持する確かな根拠がある

# 上の表から分かること

上の表から、表に記載されている様々な予防処置が

- ①虫歯の予防
- ②歯周病の予防
- ③噛み合わせ(歯並び)不正の予防

に繋がることが分かりますが、それらの効果には少し違いがあることがわかります。  
**特に赤色で表示した予防処置には効果が高いと判断されます。**

※ただし、予防処置は予防処置をしたからと言って必ず虫歯にならない訳ではありません。予防処置を行った後もしっかりと歯磨きや生活習慣が大切になることを、ここでもう一度御話しておきたいと思います。

